

小学校教員養成特別コース

実習の基本計画(小学校教員養成特別コース)

1. 実習の目的

本コースの実習科目(4科目)を履修することによって、自己の専門性を活かしながら小学校教員として必要な実践的な指導力及び展開力を身につけるとともに、絶えず実践を省察し、自己の実践的な指導力及び展開力の向上を図ることができる探究力や改善力を形成する。それによって、新しい学校づくりの担い手として高い期待に応えうる小学校教員を養成することを目的とする。

2. 実習科目

(実習科目)	(単位数・時間数)	(配当年次)	(実施時期)
実地研究 (基本実習)	4単位・120時間	2年次	11月～12月
実地研究 (発展実習)	8単位・240時間	2年次	12月～3月
インターンシップ	2単位・60時間	3年次	通年

3. 実習校(連携協力校)

(実習科目)	(実習場所)	(必要な実習校数等)
実地研究 (基本実習)	小学校	10校
実地研究 (発展実習)	小学校	10校
インターンシップ	小学校	10校

4. 科目別の実習内容, 指導体制, 評価方法等

実地研究 (基本実習)

(実習内容)

4週間の教育実習を通して、1) 公立小学校の教育全般について実地に学び、教科指導、特別活動や総合学習の指導に必要な内容・方法及び技術を修得する。また、2) 配属学級の指導教諭の教育活動をAT(アシスタント・ティーチャー)として支援・援助しながら、保護者や地域からのニーズや課題に応じた特色ある教育実践がどのように行われているのか理解することを目的とする。

9月に、大学でのオリエンテーションと実習校での事前指導を実施する。その際、大学の実習指導教員(スーパーバイザー)及び実習校の実習指導教諭(メンター)と学生とが協議を行い、個別実習計画を作成する。

11月からの実習では公立小学校の教育全般について実習するが、実習中は配属学級の実習指導教諭のAT(アシスタント・ティーチャー)として支援・補助しながら、個別実習計画に基づいて教科指導等の実習を行う。教科指導の実習については、少なくとも国・社・算・理・生活の中から3教科、音・図工・体・家庭から2教科の授業を行う。

実習は週4日行い、週1日は大学に戻り「リフレクションセミナー」を通して4日間の実習で得た成果を省察する。省察した内容(レポート)は、翌週の初めに実習校の実習指導教諭へ提出する。

各週の大まかな予定は、以下のとおりである。

第1週：教科指導、特別活動、総合学習のA Tとして観察又は補助

第2週：教科指導の実習、特別活動と総合学習のA Tとして補助

第3週：教科指導の実習、特別活動と総合学習のA Tとして補助

第4週：教科指導の実習、研究授業の実施、特別活動と総合学習のA Tとして補助

(指導計画・体制)

- ・実習科目（実地研究 ・ 及びリフレクションセミナー、インターンシップ）の責任者（ディレクター）を1名置く。
- ・実地研究 の実習担当教員（担当リーダー）を4名程度置く。実習担当教員は、実地研究 の全体の企画・運営を担当し、受け持った実習生の実習指導及び訪問指導も行う。
- ・実習担当教員以外の教員は、実習指導教員として担当した実習生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・原則として大学の実習指導教員1名が実習校1校を担当する。
- ・実習校に実習指導教諭を依頼する。
- ・実習担当教員と実習指導教員、実習校の実習指導教諭の3者が緊密に連携を取り、実習を進める。
- ・各担当の実習生の個別実習計画については、大学の実習指導教員と実習校の実習指導教諭と実習生が協議しながら作成する。
- ・大学の実習指導教員は、実習校へ2週間に1度訪問指導を行う。訪問指導では、学生の授業や実践の観察を行った後、実習校の実習指導教諭、大学の実習指導教員、実習生の3者によるチーム・コンサルテーションを実施する。
- ・実習生の成績評価は、実習評価票に基づいて実習校の実習指導教諭と大学の実習指導教員が共同で行う。
- ・週1日は、大学においてその週の実習の成果を省察する。省察では、大学の実習指導教員が中心となって実習生を指導し、リフレクション・レポートを作成させる。作成したリフレクション・レポートは翌週、実習校の実習指導教諭へポートフォリオとして提出する。

(準備・進め方)

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・実習における学習目標及び実習の実施計画
- ・実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及び実習指導教諭の承諾

- ・実習担当教員が教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・大学の実習指導教員と実習生が実習校を訪問し、理解と承諾を得る。

(3) 各種様式等の作成

- ・実習の概要、心構え、注意事項等
- ・個別実習計画
- ・実習日誌

・ 評価票

これらを「**実地研究 実習記録ノポートフォリオ**」としてまとめる。また、本コースでは「**実地研究 ・ / インターンシップ・ハンドブック**」を作成したいと考えている。

(評価方法)

実習日誌は毎日記入し、実習校の実習指導教諭へ提出すること。実習終了後1週間以内に大学へ実習記録を提出すること。

実習生の成績評価は、7つの評価観点に基づいて実習校の実習指導教諭(70%)と大学の実習指導教員(30%)が共同で行う。評定は、以下の観点について、A(90点・100点)、B(80点・89点)、C(70点・79点)、D(60点・69点)、F(59点以下)の5段階とし、AからDまでを合格、Fを不合格とする。

- (1) 教職意識
- (2) 児童理解力
- (3) コミュニケーション力
- (4) 計画力・教材研究力
- (5) 学習指導力
- (6) 評価力
- (7) 実習記録

実地研究 (発展実習)

(実習内容)

8週間の教育実習を通して、1)実習校における教科指導、特別活動及び総合学習の指導に加えて、道徳、生徒指導、特別支援教育の実践にも関わり、それらの内容・方法及び技術を修得する。また、2)自己の得意教科の指導力を高め、3)一定期間、配属学級の学級担任業務を担うことによって、小学校教員としての自立に向けた実践的指導力を養うことを目的とする。

9月に、**実地研究**に関する大学でのオリエンテーションとあわせ**実地研究**のオリエンテーションも行い、実習校での事前指導も**実地研究**にあわせて同時に実施する。その際、大学の実習指導教員(スーパーバイザー)及び実習校の実習指導教諭(メンター)と学生とが協議を行い、**実地研究**とあわせて**実地研究**についての個別実習計画を作成する。

実習は、**実地研究**と同一校において、教科指導、特別活動、総合学習の指導に加えて、道徳、生徒指導、特別支援教育、学校事務についてもAT(アシスタント・ティーチャー：副担任)として関わり、8週間の**発展実習**を行う。

実習内容は、実習校の実習指導教諭、大学の実習指導教員、実習生の3者が事前に協議をして設定するが、その際に以下の点を踏まえることとする。

- ・教科指導は一通り全ての教科の授業を行う。
- ・毎週1回は、得意教科の授業を行う。
- ・実習の第4週目から徐々に学級担任業務を担当し、第6週目あたりから1～2週間程度、終日で学級担任業務を行う。

- ・ 道徳の授業を行う。
- ・ 最終週に研究授業を行う。

実習は週4日行い、週1日は大学に戻り「リフレクションセミナー」を通して4日間の実習で得た成果を省察する。省察した内容（レポート）は、翌週の初めに実習指導教諭へ提出する。

各週の大まかな予定は、以下のとおりである。

- 第1週：教科指導の実習（例えば、社会と音楽等）、得意教科の授業実習（1回）、特別活動と総合学習の指導への参加（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）
- 第2週：教科指導（例えば、理科と体育等）と道徳の授業の実習、得意教科の授業実習（1回）、特別活動と総合学習の指導への参加（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）
- 第3週：教科指導の実習（例えば、算数と家庭等）、得意教科の授業実習（1回）、特別活動と総合学習の指導への参加（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）
- 第4週：教科指導の実習（算数と国語等）、得意教科の授業実習（1回）、1日学級担任実習（1日）
- 第5週：教科指導（例えば、図画工作等）と道徳の授業の実習、得意教科の授業実習（1回）、1日学級担任実習（2日）
- 第6週：1日学級担任実習（1週間）
- 第7週：教科指導（例えば、国語等）と道徳の授業の実習、得意教科の授業実習（1回）、1日学級担任実習（1日）
- 第8週：教科指導の実習（算数と理科等）、得意教科による研究授業の実施、特別活動と総合学習の指導への参加（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

（指導計画・体制）

- ・ 実習科目（実地研究 ・ 及びリフレクションセミナー、インターンシップ）の統括責任者（ディレクター）を1名置く。
- ・ 実地研究 の実習担当教員（担当リーダー）を4名程度置く。実習担当教員は、実地研究 の全体の企画・運営を担当し、受け持った実習生の実習指導及び訪問指導も行う。
- ・ 実習担当教員以外の教員は、実習指導教員として担当した実習生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・ 原則として大学の実習指導教員1名が実習校1校を担当する。
- ・ 実習校に実習指導教諭を依頼する。
- ・ 実習担当教員と実習指導教員、実習校の実習指導教諭の3者が緊密に連携を取り、実習を進める。
- ・ 各担当の実習生の個別実習計画については、大学の実習指導教員と実習校の実習指導教諭と実習生が協議しながら作成する。
- ・ 大学の実習指導教員は、実習校へ2週間に1度訪問指導を行う。訪問指導では、学生

の授業や実践の観察を行った後、実習校の実習指導教諭、大学の実習指導教員、実習生の3者によるチーム・コンサルテーションを実施する。

- ・実習生の成績評価は、実習評価票に基づいて実習校の実習指導教諭と大学の実習指導教員が共同で行う。
- ・週1日は、大学においてその週の実習の成果を省察する。省察では、大学の実習指導教員が中心となって実習生を指導し、リフレクション・レポートを作成させる。作成したリフレクション・レポートは翌週、実習校の実習指導教諭へポートフォリオとして提出する。

(準備・進め方)

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・実習における学習目標及び実習の実施計画
- ・実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及び実習指導教諭の承諾

- ・実習担当教員が教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・大学の実習指導教員と実習生が実習校を訪問し、理解と承諾を得る。

(3) 各種様式等の作成

- ・実習の概要、心構え、注意事項等
- ・個別実習計画
- ・実習日誌
- ・評価票

これらを「**実地研究 実習記録/ポートフォリオ**」としてまとめる。また、本コースでは「**実地研究 ・ /インターンシップ・ハンドブック**」を作成したいと考えている。

(評価方法)

実習日誌は毎日記入し、実習校の実習指導教諭へ提出すること。実習終了後1週間以内に大学へ実習記録を提出すること。

実習生の成績評価は、11の評価観点に基づいて実習校の実習指導教諭(70%)と大学の実習指導教員(30%)が共同で行う。評定は、以下の観点について、A(90点・100点)、B(80点・89点)、C(70点・79点)、D(60点・69点)、F(59点以下)の5段階とし、AからDまでを合格、Fを不合格とする。

- (1) 教職意識
- (2) 児童理解力
- (3) コミュニケーション力
- (4) 計画力・教材研究力
- (5) 学習指導力
- (6) 評価力
- (7) 学級経営力
- (8) 生徒指導力
- (9) 自己改善力
- (10) 連携・協働

(11)実習記録

インターンシップ

(実習内容)

「実地研究 ・ 」の成果や課題を踏まえ、実習校のインターンとなって教育活動の一端を責任をもって担い、小学校教員として自律的に実践的指導力を修得することを目的とする。したがって、「教育実践研究」との関わりから、「実地研究 ・ 」と同一校において、実践上の課題解決に向けて積極的に教育活動に参加し、自己研鑽を積むことになる。

4月に大学でのオリエンテーションと実習校での事前指導を実施する。その際、学生は2年次の「実地研究リフレクションセミナー」で得た成果と課題に基づいて、実習校の実習指導教諭（メンター）や大学の実習指導教員（スーパーバイザー）と協議しながら期間中の個別実習計画を作成する。例えば、実習課題としては、「学級集団づくりに役立つ学校行事の運営方法」や「学級における生活や学習のルール設定の仕方と生徒指導の在り方」、「つまずき単元における教材研究と発問の在り方」などが考えられる。

インターンシップ期間中は、実習校のインターンとして配属学級の教育活動の一端を責任をもって担い、通年で60時間以上の教育支援活動を行う。期間中の活動は、実習校の実習指導教諭の指示や指導の下、当該学級にとっても実習生にとっても有益な活動になるように努める。

活動後は、学生が毎日日誌を記入し、指導教諭へ提出して検閲を受ける。また、インターンシップで得た活動の成果は、大学での「教育実践研究」において実習指導教員へ報告する。

(指導計画・体制)

- ・実習科目（実地研究 ・ 及びリフレクションセミナー、インターンシップ）の統括責任者（ディレクター）を1名置く。
- ・インターンシップの実習担当教員（担当リーダー）を3名程度置く。実習担当教員は、インターンシップの全体の企画・運営を担当し、受け持った実習生の実習指導及び訪問指導も行う。
- ・担当教員以外の教員は、実習指導教員として担当した実習生の実習指導及び訪問指導を行う。ただし、実習指導教員は、実習生の研究指導教員を兼ねる。
- ・実習校に実習指導教諭を依頼する。
- ・大学の実習担当教員と実習指導教員、実習校の実習指導教諭の3者が緊密に連携を取り、インターンシップを進める。
- ・各担当の実習生の個別実習計画については、大学の実習指導教員と実習校の実習指導教諭と実習生が協議しながら作成する。課題が複数ある場合は、テーマ毎に個別実習計画を作成する。
- ・大学の実習指導教員は、学生が提出した個別実習計画に基づき適宜訪問指導を行う。訪問指導では、学生の授業や実践の観察を行った後、実習校の実習指導教諭、大学の実習指導教員、実習生の3者によるチーム・コンサルテーションを実施する。

- ・ 実習生の成績評価は、実習評価票に基づいて実習校の実習指導教諭と大学の実習指導教員が共同で行う。

(準備・進め方)

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・ 実習における学習目標及び実習の実施計画
- ・ 実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及び実習指導教諭の承諾

- ・ 実習担当教員が教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・ 大学の実習指導教員と実習生が実習校を訪問し、理解と承諾を得る。

(3) 各種様式等の作成

- ・ 実習の概要、心構え、注意事項等
- ・ 個別実習計画
- ・ 実習日誌
- ・ 評価票

これらを「インターンシップ実習記録/ポートフォリオ」としてまとめる。また、本コースでは「実地研究 ・ /インターンシップ・ハンドブック」を作成したいと考えている。

(評価方法)

実習日誌は活動後毎回記入し、実習校の実習指導教諭へ提出すること。実施期間終了後1週間以内に大学へ実習記録を提出すること。

実習生の成績評価は、7つの評価観点に基づいて実習校の実習指導教諭(70%)と大学の実習指導教員(30%)が共同で行う。評定は、以下の観点について、A(90点・100点)、B(80点・89点)、C(70点・79点)、D(60点・69点)、F(59点以下)の5段階とし、AからDまでを合格、Fを不合格とする。

- (1) 実習態度
- (2) 個別実習計画
- (3) 実習生の実習成果
- (4) 実習校への貢献度
- (5) 小学校教員としての成長度
- (6) 実習記録
- (7) 総括レポート

5. その他

(実習資料の様式)

(1) 実習の個別計画表

- ・ 実地研究 個別実習計画様式.....様式(1)-
- ・ 実地研究 個別実習計画様式.....様式(1)-
- ・ インターンシップ個別実習計画様式.....様式(1)-

(2) 実習日誌

- ・ 実地研究 実習日誌様式.....様式(2)-
- ・ 実地研究 実習日誌様式.....様式(2)-
- ・ インターンシップ実習日誌様式.....様式(2)-

(3) チーム・コンサルテーション

- ・ 実地研究 チーム・コンサルテーション様式.....様式(3)-
- ・ 実地研究 チーム・コンサルテーション様式.....様式(3)-
- ・ インターンシップ チーム・コンサルテーション様式.....様式(3)-

(4) 総括レポート

- ・ 実地研究 総括レポート様式.....様式(4)-
- ・ 実地研究 総括レポート様式.....様式(4)-
- ・ インターンシップ総括レポート様式.....様式(4)-

(5) 評価票

- ・ 実地研究 評価票様式.....様式(5)-
- ・ 実地研究 評価票様式.....様式(5)-
- ・ インターンシップ評価票様式.....様式(5)-

実地研究 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

実習生氏名		学籍番号	
実習生連絡先	()		
実習期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 ()		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校 実習指導教諭			
大学 実習担当教員	(研究室)		
大学 実習指導教員	(研究室)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数 :	学級数 :	教員数 :

教育目標			
特色ある教育の取組			
地域性			
その他、特記事項			
実 習 生 の プ ロ フ ィ ー ル			
性別	男性 ・ 女性	年齢	歳
教員免許	有 ・ 無 (免許種 :)		
社会人経験	有 ・ 無 (職種 :)		
資格・特技			
自己アピール			
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標			
第1週			
第2週			
第3週			
第4週			
各 週 に お け る 実 習 の 実 施 計 画			

週	月 日	学校・学級行事	実習計画
第 1 週	第1日目 (月 日)		
	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		
第 2 週	第1日目 (月 日)		
	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		
第 3	第1日目 (月 日)		

週	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		
第 4 週	第1日目 (月 日)		
	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		

実地研究 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

実習生氏名		学籍番号	
実習生連絡先	()		
実習期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 ()		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校 実習指導教諭			
大学 実習担当教員	(研究室)		
大学 実習指導教員	(研究室)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数 :	学級数 :	教員数 :

教育目標			
特色ある教育の取組			
地域性			
その他、特記事項			
実 習 生 の プ ロ フ ィ ー ル			
性別	男性 ・ 女性	年齢	歳
教員免許	有 ・ 無 (免許種 :)		
社会人経験	有 ・ 無 (職種 :)		
資格・特技			
自己アピール			
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標			
第1週			
第2週			
第3週			
第4週			
第5週			

	第6週		
	第7週		
	第8週		
各週における実習の実施計画			
週	月日	学校・学級行事	実習計画
第1週	第1日目 (月日)		
	第2日目 (月日)		
	第3日目 (月日)		
	第4日目 (月日)		
	第5日目 (月日)		
	備考		
第2週	第1日目 (月日)		
	第2日目 (月日)		
	第3日目 (月日)		

	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		
第 3 週	第1日目 (月 日)		
	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		
第 4 週	第1日目 (月 日)		
	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目		

	(月 日)		
	備考		
第 5 週	第 1 日目 (月 日)		
	第 2 日目 (月 日)		
	第 3 日目 (月 日)		
	第 4 日目 (月 日)		
	第 5 日目 (月 日)		
	備考		
第 6 週	第 1 日目 (月 日)		
	第 2 日目 (月 日)		
	第 3 日目 (月 日)		
	第 4 日目 (月 日)		
	第 5 日目 (月 日)		
	備考		

第 7 週	第1日目 (月 日)		
	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		
第 8 週	第1日目 (月 日)		
	第2日目 (月 日)		
	第3日目 (月 日)		
	第4日目 (月 日)		
	第5日目 (月 日)		
	備考		

インターンシップ 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

実習生氏名		学籍番号	
実習生連絡先	()		
実習期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 ()		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校 実習指導教諭			
大学 実習担当教員	(研究室)		
大学 実習指導教員	(研究室)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数 :	学級数 :	教員数 :

教育目標			
特色ある教育の取組			
地域性			
その他、特記事項			
実 習 生 の プ ロ フ ィ ー ル			
性別	男性 ・ 女性	年齢	歳
教員免許	有 ・ 無 (免許種 :)		
社会人経験	有 ・ 無 (職種 :)		
資格・特技			
自己アピール			
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標			
実習課題 1			
実習課題 2			
実習課題 3			
実習課題 4			
実習課題 5			

実 習 の 実 施 計 画

実 習 課 題 1	第 1 日 目 (月 日)	
	第 2 日 目 (月 日)	
	第 3 日 目 (月 日)	
	第 4 日 目 (月 日)	
	第 5 日 目 (月 日)	
	第 6 日 目 (月 日)	
	第 7 日 目 (月 日)	
	第 8 日 目 (月 日)	
	第 9 日 目 (月 日)	
	第 10 日 目 (月 日)	
	第 11 日 目 (月 日)	
	第 12 日 目 (月 日)	
実	第 1 日 目	

習 課 題 2	(月 日)	
	第 2 日 目 (月 日)	
	第 3 日 目 (月 日)	
	第 4 日 目 (月 日)	
	第 5 日 目 (月 日)	
	第 6 日 目 (月 日)	
	第 7 日 目 (月 日)	
	第 8 日 目 (月 日)	
	第 9 日 目 (月 日)	
	第 10 日 目 (月 日)	
	第 11 日 目 (月 日)	
	第 12 日 目 (月 日)	
実 習 課 題 3	第 1 日 目 (月 日)	
	第 2 日 目 (月 日)	

	第 3 日目 (月 日)	
	第 4 日目 (月 日)	
	第 5 日目 (月 日)	
	第 6 日目 (月 日)	
	第 7 日目 (月 日)	
	第 8 日目 (月 日)	
	第 9 日目 (月 日)	
	第 10 日目 (月 日)	
	第 11 日目 (月 日)	
	第 12 日目 (月 日)	
実 習 課 題 4	第 1 日目 (月 日)	
	第 2 日目 (月 日)	
	第 3 日目 (月 日)	
	第 4 日目 (月 日)	

	第 5 日目 (月 日)	
	第 6 日目 (月 日)	
	第 7 日目 (月 日)	
	第 8 日目 (月 日)	
	第 9 日目 (月 日)	
	第 10 日目 (月 日)	
	第 11 日目 (月 日)	
	第 12 日目 (月 日)	
実習課題 5	第 1 日目 (月 日)	
	第 2 日目 (月 日)	
	第 3 日目 (月 日)	
	第 4 日目 (月 日)	
	第 5 日目 (月 日)	
	第 6 日目	

(月 日)	
第 7 日 目 (月 日)	
第 8 日 目 (月 日)	
第 9 日 目 (月 日)	
第 10 日 目 (月 日)	
第 11 日 目 (月 日)	
第 12 日 目 (月 日)	

実習校 / 実習指導教諭 _____ 印

大学 / 実習指導教員 _____ 印

インターンシップ 実習日誌 様式

第 回

実施日 平成 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :
実習時間(時間 分)

A . 教育活動のねらい

B . 教育活動の内容と方法

C . 教育活動の場所

D . 活動の成果と反省・課題

実習校 / 実習指導教諭

印

実地研究 評価票 様式

兵庫教育大学
小学校教員養成特別コース
(実習校 / 実習指導教諭用)

実習生の成績評価は、7つの評価観点に基づいて実習校の実習指導教諭(70%)と大学の
実習指導教員(30%)が共同で行う。評定は、以下の観点について、A(90-100点)、B
(80-89点)、C(70-79点)、D(60-69点)、F(59点以下)の5段階で行う。その後、実習生
の実習成果について所見を記述する。

(1) 観点別評価

評価項目	評定尺度
(1)教職意識	A --- B --- C --- D --- F
(2)児童理解力	A --- B --- C --- D --- F
(3)コミュニケーション力	A --- B --- C --- D --- F
(4)計画力・教材研究力	A --- B --- C --- D --- F
(5)学習指導力	A --- B --- C --- D --- F
(6)評価力	A --- B --- C --- D --- F
(7)実習記録	A --- B --- C --- D --- F
総合評価	A --- B --- C --- D --- F

(2) 総合所見

実習校 / 実習指導教諭

印

実地研究 評価票 様式

兵庫教育大学
小学校教員養成特別コース
(実習校 / 実習指導教諭用)

実習生の成績評価は、11の評価観点に基づいて実習校の実習指導教諭(70%)と大学の
実習指導教員(30%)が共同で行う。評定は、以下の観点について、A(90-100点)、B
(80-89点)、C(70-79点)、D(60-69点)、F(59点以下)の5段階で行う。その後、実習生
の実習成果について所見を記述する。

(1) 観点別評価

評価項目	評定尺度
(1)教職意識	A --- B --- C --- D --- F
(2)児童理解力	A --- B --- C --- D --- F
(3)コミュニケーション力	A --- B --- C --- D --- F
(4)計画力・教材研究力	A --- B --- C --- D --- F
(5)学習指導力	A --- B --- C --- D --- F
(6)評価力	A --- B --- C --- D --- F
(7)学級経営力	A --- B --- C --- D --- F
(8)生徒指導力	A --- B --- C --- D --- F
(9)自己改善力	A --- B --- C --- D --- F
(10)連携・協働	A --- B --- C --- D --- F
(11)実習記録	A --- B --- C --- D --- F
総合評価	A --- B --- C --- D --- F

(2) 総合所見

実習校 / 実習指導教諭

印

インターンシップ 評価票 様式

兵庫教育大学

小学校教員養成特別コース

(実習校 / 実習指導教諭用)

実習生の成績評価は、7つの評価観点に基づいて実習校の実習指導教諭(70%)と大学の
実習指導教員(30%)が共同で行う。評定は、以下の観点について、A(90-100点)、B
(80-89点)、C(70-79点)、D(60-69点)、F(59点以下)の5段階で行う。その後、実習生
の実習成果について所見を記述する。

(1) 観点別評価

評価項目	評定尺度
(1)実習態度	A --- B --- C --- D --- F
(2)個別実習計画	A --- B --- C --- D --- F
(3)実習生の実習成果	A --- B --- C --- D --- F
(4)実習校への貢献度	A --- B --- C --- D --- F
(5)小学校教員としての成長度	A --- B --- C --- D --- F
(6)実習記録	A --- B --- C --- D --- F
(7)総括レポート	A --- B --- C --- D --- F
総合評価	A --- B --- C --- D --- F

(2) 総合所見

実習校 / 実習指導教諭

印

小学校教員養成特別コースにおけるカリキュラム配置モデル(案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	<p>小学校教員免許状取得必修科目</p> <p>[中高免所有者 47単位、中高免非所有者 50単位(学部授業科目)]</p>				<p>小学校教員免許状取得必修科目</p> <p>(1科目、2単位) 専門科目</p> <p>集中 「道德教育諸理論と道德の授業づくり」(2単位)</p>				<p>小学校教員免許状取得必修科目</p> <p>専門科目(1科目、2単位)</p> <p>「教育実地基礎研究」(2単位)</p>			
2 年 次	<p>小学校教員免許状取得必修科目</p> <p>[中高免非所有者 15単位(学部授業科目)]</p> <p>専門科目(6科目、12単位)</p> <p>「学級づくりと教育的関係の構築」(2単位) 「生徒指導とキャリア教育の実際」(2単位) 「総合学習の創造過程と評価法」(2単位)...選択 「特別活動指導と自治的文化的活動の展開」(2単位) 「障害のある児童への指導と支援方法」(2単位) 「教科の授業づくりと授業分析・評価」(2単位)</p> <p>* 各専門科目は1日を連携協力校等の学校現場での観察・調査等、1日を観察・調査等の結果を踏まえての演習等で構成する。</p>				<p>小免必修科目 実地教育 (4W)[附属小]</p> <p>専門科目(1科目、2単位)</p> <p>「教育実地基礎研究」(2単位)...選択</p> <p>実習科目 「実地研究」(4単位) (4W)[連携協力校]</p> <p>実習科目 「実地研究」(8単位) (8W)[連携協力校]</p> <p>実習科目 「実地研究リフレクションセミナー」(2単位)[本学]</p> <p>* 「実地研究」、「同」に並行して週1日は大学でセミナーを履修する。</p>							
3 年 次	<p>共通基礎科目(16単位)</p> <p>専門科目(3科目、6単位)</p> <p>「教科の内容・指導法研究(国語科・音楽科)」(2単位)...選択 「教科の内容・指導法研究(算数科・図工科)」(2単位)...選択 「教科の内容・指導法研究(社会科・家庭科)」(2単位)...選択</p>				<p>共通基礎科目(4単位)</p> <p>専門科目(2科目、4単位)</p> <p>「教科の内容・指導法研究(理科・体育科)」(2単位)...選択 「教科の内容・指導法研究(生活科・総合学習・英語)」(2単位)...選択</p>							
	<p>専門科目(1科目、4単位)</p> <p>「教育実践研究」(4単位:通年)</p> <p>実習科目「インターンシップ」(2単位:通年)[連携協力校]</p> <p>* 連携協力校と協議のうえ、年間60時間の実習を行う。</p>											
	<p>教員採用試験</p>											